

発刊にあたって

日本保育保健協議会

会長 三浦義孝

本協議会は、平成 23 年より一般社団法人となり、平成 27 年からは日本保育保健協議会と改名いたしました。会員は、園医のみならず、一日を園児たちと共に生活している保育士、看護師、保健師、栄養士、調理師、園長、行政関係者などほとんどの職種を包含しています。

日頃、保育園や幼稚園の先生から、「気になる子がいる」「子どもの様子がおかしい」と相談を受けることがあります。「落ち着きがない」、「言葉が遅い」、「周りの子と少し違う」など、その心配はいろいろです。神経学的に発達遅滞のある子どもは、市内の医療機関で比較的早期に発見されフォローされていますが、現在は、言語発達の遅れ、多動・自閉・行動異常、精神発達に問題のある子どもが増加しており、その中には ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如多動性症）、LD（限局性学習症）などの子も含まれています。しかし、各疾患の概念はわかりにくく、個性との境界あるいは区別がつかない点などの難しさもあります。「発達障害などの気になる子」についての具体的な解説を通して、自信を失いやすい保護者へのサポート、子どもたちへの理解を深めていくことが大切です。

今般、日本保育保健協議会発達支援委員会編集の「保育者向け研修講義テキスト・園で気になる子どもの理解と関わり方」が発刊の運びとなりました。

本書では、日常の保育園の生活で、気になる事柄を取り上げてわかりやすく解説されています。内容も充実し、利用しやすいようになっています。

嘱託医・園医の先生方はもちろん、保育所・幼稚園・認定こども園に携わっている指導的立場の方々が、保育者向けの研修会、ご指導に際して本書をご活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたって、監修された金原洋治委員長をはじめ執筆と編集にあられた諸先生方に心から感謝申し上げます。

作成の主旨と活用法

日本保育保健協議会発達支援委員会
委員長 金原洋治

幼稚園、保育園、こども園では、保育・教育担当者が気になる子どもが増えているようです。主因は、子どもをとりまく成育環境の変化によるものだと思います。考えられるものを挙げてみると、①夜型社会がもたらす睡眠不足のための情緒や行動への影響、②コンビニ化社会による待つ力の育ちにくさ、③IT 機器への乳幼児期早期からの暴露と視覚情報に偏った生活による聞く力の低下、④少子化・核家族化によるコミュニケーション能力の成長の遅れなどが挙げられると思います。

また、ASD（自閉スペクトラム症）・ADHD（注意欠陥多動性症）などの発達障害と診断されたり、発達障害によく似た行動を示す子どもも増えています。その要因は、発達障害者支援法（2004年）や特別支援教育（2007年）の導入により発達障害が目されるようになったため、子どもに関わる大人のまなざしが、気になる子どもを発達障害と結びつけてしまうことにも一因があると考えています。このような時代背景のなかで、幼稚園、保育園、こども園の保育・幼児教育担当者には、発達障害などの支援や配慮が多く必要な子どもへの保育力や支援力の向上が求められる時代になったと考えています。

このテキストは、医師や保育・幼児教育の支援者および園の指導的立場の人たちが、主に、経験の浅い保育者向けに行う研修会に役立てていただくことを企図して作成しました。適切な保育や関わり方を知るためには、まず、正しい理解が大切ですので、理解の部分に多くのページを使いました。子どもを「発達障害かどうかではなく様々な角度から見る」ことに重点をおき、気質、不安、感覚、愛着に重点を置いた構成にしました。関わり方については、育てにくさを、①子どもの要因、②親の要因、③親子の関係性、④親子を取り巻く環境要因にわけ、関わり方の基本と事例をあげて支援の方法を解説しました。

CD-ROM も付けてありますので、講義担当者が使いやすいように改変してください。追加や削除したりして使用されても構いません。

多くの皆様にお役にたてれば幸いです。

目 次

発刊にあたって 日本保育保健協議会会長 三浦義孝	2
作成の主旨と活用法 日本保育保健協議会発達支援委員会委員長 金原洋治	3
スライド1 園で気になる子どもの理解と関わり方	7
スライド2 保育者が困ること・教えて欲しいこと 気になる子どもへの関わり方	8
スライド3 園で気になる子どもの理解	9
スライド4 子どもは素質を基盤に環境との相互作用で成長する	10
スライド5 気になる子どもの要因	11
スライド6 発達障害も多様な個性の要素の一つ	12
スライド7 不注意・多動性・衝動性・こだわりもスペクトラム状（連続体）・ 程度は様々	13
スライド8 発達障害の考え方	14
スライド9 子ども時代の発達障害は症状が目立たなくなるものもあるが逆もある	15
スライド10 発達障害かどうかではなく様々な角度から見ることと 個性の要素への配慮が大切	16
スライド11 赤ちゃんにも個性がある（気質）	17
スライド12 シャイネスと行動抑制的気質	18
スライド13 人は様々な方法で不安を表現する	19
スライド14 不安症の種類と発症時期	20
スライド15 社交不安症	21
スライド16 不安気質と自閉症	22
スライド17 感覚の問題	23
スライド18 感覚調整障害と子どもの行動	24
スライド19 愛着の問題	25
スライド20 子どもへのマルトリートメントを防ぎ愛着形成支援	26
スライド21 子どもへのマルトリートメント（不適切な関わり）の脳への影響	27
スライド22 主な発達障害の特性と重なり	28
スライド23 主な発達障害の診断できる時期	29
スライド24 幼児期の自閉スペクトラム症（ASD）	30
スライド25 幼児期のもしかしてADHD（注意欠如多動性症）	31
スライド26 幼児期のもしかしてLD（限局性学習症）	32
スライド27 園で気になる子どもへの関わり方	33
スライド28 保育者が困ること・教えて欲しいこと 気になる子どもへの関わり方	34
スライド29 気になる行動には理由があると考え	35
スライド30 不安が強い子・シャイな子への関わり方	36
スライド31 感覚の問題がある子への関わり方	37

スライド 32	発達は子どものねがいからはじまる	38
スライド 33	子どもの大丈夫感を育む	39
スライド 34	得意を増やす・伸ばす	40
スライド 35	気持ちを聴き・気持ちに名前をつける	41
スライド 36	子どもの行動を3つに分け対応を考える	42
スライド 37	ティーチャーズ・トレーニング (ペアレントトレーニングの保育士・教師版)	43
スライド 38	ティーチャーズ・トレーニング後の保育者の変化	44
スライド 39	具体的な事例への関わり方・対応	45
スライド 40	事例 1 手が出やすい・叩く・ける	46
スライド 41	事例 2 勝ち負けにこだわる	47
スライド 42	事例 3 指示が入りにくい	48
スライド 43	事例 4 登園をしぶる・親から離れない	49
スライド 44	事例 5 園でしゃべらない(場面緘黙)	50
スライド 45	発達障害をもつ子どもを成長させる 12 か条	51
スライド 46	園で気になる保護者への関わり方	52
スライド 47	保育者が困ること・教えて欲しいこと 保護者への対応	53
スライド 48	育てにくさは親にとっての SOS と考え 子どもの育ちと親の育てにくさを 4つの視点から支援する	54
スライド 49	親子をとりまく環境の要因	55
スライド 50	親の要因	56
スライド 51	気になる親は親が困っていると考え	57
スライド 52	事例 6 気づきが少ない親への対応	58
スライド 53	気づきが少ない親への対応 関係機関への繋ぎ方	59
スライド 54	親子の関係性による要因①	60
スライド 55	親子の関係性による要因②	61
スライド 56	親子の関係性が気になる親への対応	62
スライド 57	園で気になる子どもの理解と関わり方 この講義の最も大切なポイント	63
スライド 58	ひかげ(詩)	64
あとがき	日本保育保健協議会理事 秋山千枝子	65
作成担当者		66